

**1. 単元名 小中探究交流会に向けて****2. 本時の概要**

本時は、近隣の小学校6年生を招いて実施する「小中探究交流会」に向けた直前準備および、対話スキルの向上を目的としたグループワークを行う。交流会の目的は、中学生が自らの歩みを振り返り、その経験を伝える過程を通して他者との関わりにおける役割意識や社会性を育むことにある。中学生は1年前の自分を想起し、入学当初の不安をどう乗り越えたかを言語化することで、小学生の不安を解消し安心感を与える役割を担う。また、本時では日々の気づきを記録し次へ活かす「LIFEログ」の習慣化を図る。これは、教科の授業や部活、探究活動などの日常から得た気づきを言葉にし、実際の行動に繋げるメタ認知能力を養うためである。さらに、グループワークトレーニング「ぼくらの先生」を実施する。自分の情報を正しく伝え、他者の情報を統合して課題を解決する体験を通じ、交流会当日における小学生との円滑な対話や、協調的な問題解決能力の基盤を形成する。これらの活動を通じて、生徒が「伝える力」や「社会の中での役割」を実感できる場として本時を設定する。

**3. 本時の目標**

- **LIFEログの意義と方法の理解:**「LIFEログ」の意義とループリック(レベル3)を理解し、日々の体験から自己の成長や課題を言語化する「成長に繋がる振り返り」を記述できるようになる。
- **分かりやすい探究発表の考案:**中学校入学当時の不安や戸惑いを具体的に思い出し、小学生に対して安心感や期待感を与えられるような対話の内容や、分かりやすい探究発表の構成をグループで協力して考案できる。
- **グループトレーニング実践:**グループワークトレーニングを通じ、自分が持つ情報を言葉で正確に伝えるとともに、他者の情報を注意深く聴き取ることで、集団で協力して課題を解決するコミュニケーションスキルを習得する。

**4. 本時の準備・使用教材・参考文献**

- 教員用提示資料:
  - 授業スライド 第29回
- 使用教材(副教材):
  - 岡本尚也(2024)『ゼロから始める探究活動 課題研究メソッド ZERO』新興出版社啓林館
- 参考文献:

- 坂野公信監修・日本学校グループワーク・トレーニング研究会(2016)『改訂 学校グループワーク・トレーニング』図書文化

## 5. 本時の展開

| 時間     | 学習活動                                                                                                                | 指導上の留意点・教員の支援                                                                                                          |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【1時限目】 |                                                                                                                     |                                                                                                                        |
| 10分    | <b>LIFEログの作成</b><br>・日々の気づきを言葉にする「LIFEログ」の意義を確認し、スクールタクトの「2月」の課題に入力する。日々の活動から感じたことや考えたことを4～5行程度で言語化し、次の活動に活かす意識を持つ。 | ・体験を言葉にすることの重要性を説き、特に「ズレ」や「次の行動への活かし方」に着目させる。<br>・文字の大きさは自動調整されるため、設定を変更しないよう指示する。<br>・最初は書くことが難しい生徒もいるため、例を示しながら支援する。 |
| 5分     | 交流会当日の流れの確認<br>・スライドを用いて当日のタイムテーブルやチーム構成(小学生2名＋中学生5～6名)を確認する。当日の役割として、グリーンホール(GH)へ小学生を迎えに行く代表者2名をグループ内で決定する。        | ・小学生にとって、中学生との交流が中学校生活へ円滑に移行するための土台になるという目的を意識させる。<br>・教室で待機するメンバーと迎えに行くメンバーの役割を明確にする。                                 |
| 10分    | 中学校生活に関する対話準備<br>・入学前の不安や、小学校と中学校の違い、戸惑ったことなどを思い出し、グループで共有する。それらをどう乗り越えたかという自分の体験をもとに、小学生に伝える内容を整理する。               | ・当日のグループで机を配置させ、対話の流れをシミュレーションさせる。<br>・「授業」「部活動」「行事」など、小学生が関心を持ちそうなテーマを具体的に想起させる。                                      |
| 30分    | 発表練習とリハーサル<br>・小学生に伝わる言葉選びを意識して、個人探究の発表構成を再考する。その後、クロムブックを用いて1人3分の持ち時間でグループ内発表を行い、相互にフィードバックを行う。                    | ・小学生に分かりやすい言葉や表現を使っているか確認させる。<br>・質疑応答では、発表の仕方や内容の良かった点を中心に、前向きなコメントを伝えるよう促す。<br>・視線、声の大きさ、スピード、時間を意識させる。              |
| 【2時限目】 |                                                                                                                     |                                                                                                                        |
| 5分     | グループワークトレーニングの説明<br>・「ぼくらの先生」のルールと指示書の内容を確認する。配布された情報シートの内容を他者に見せないことや、言葉だけで情報を共有することを理解する。                         | ・「情報シートは絶対に見せない」というルールを徹底させる。<br>・白紙へのメモは自由であることを伝える。                                                                  |

| 時間  | 学習活動                                                                                                    | 指導上の留意点・教員の支援                                                                       |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 20分 | <p>「ぼくらの先生」の実践</p> <p>・各自が持つ断片的な情報を口頭で伝え合い、全員の情報を組み合わせて課題解決を目指す。情報の取捨選択や共有方法を工夫しながらグループで協力する。</p>       | <p>・特定の生徒だけでなく、全員が発言できているか机間巡視で確認する。</p> <p>・情報が錯綜しているグループには、情報を整理するためのヒントを与える。</p> |
| 10分 | <p>振り返りと答え合わせ</p> <p>・ワークの正解を確認し、グループでの活動がうまくいった点や課題を振り返る。指定のフォームに自分の気づきを入力し、自身のコミュニケーションの傾向を客観視する。</p> | <p>・フォームのURLをClassroom等で適切に配信する。</p> <p>・正解することだけでなく、情報の伝え方や聞き方のプロセスを振り返るよう促す。</p>  |
| 10分 | <p>共有とまとめ</p> <p>・グループ内で振り返りの内容を共有し、代表者が全体に向けて発表する。最後に教員が本時の活動を総括し、交流会当日への意欲を高める。</p>                   | <p>・各グループ1名、代表者を決めさせる。</p> <p>・他のグループの気づきを聞くことで、多角的な視点を持たせる。</p>                    |